



2023年
3月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 瀬山 会治

印刷所
文明堂印刷所

教会があるところにと

司祭 バルナバ 永野 拓也



数年前、呉信愛教会の牧師館に住んでいた頃のことです。ある日、教会の庭からExcuse meという声が聞こえました。信愛教会は住宅

地の中にある教会です。観光客の方が、偶然通りかかる立地ではありません。その為、外国人の方が来られることはほとんどないので、驚きながらも降りてみました。すると、そこで待つてくださっていた方は英語と話しかけてこられ、やはり外国からの観光客のようでした。そこで、どういった用件で教会に来られたのか尋ねてみました。すると、オーストラリアから日本に観光で来ていることを話してくださいました。しかし、信愛教会に来られたのには、深い理由がありました。なんと「わたしの祖父母は、この教会で結婚式をしたようです。」と仰ったのです。名前をお伺いし、結婚簿を確認したところ、たしかにその名前が記されていました。

77年前戦争の終結後、呉市にはオーストラリアの進駐軍も滞在していました。その過程で、オーストラリア軍の方と日本人が恋に落ち、結婚するということもあったようです。しかし、当時のオーストラリアは「白豪主義」を掲げており、日本で結婚した夫婦が、オーストラリアでは生活できないという状況だったのです。信愛教会を訪ねて来られた方の祖父は、妻が人種によって移民として受け入れられない状況を変えるため、軍を辞め、帰国し、「白豪主義」の撤廃のための運動を始めます。その為お二人は4年間、日本とオーストラリアで離れて生活しました。信愛教会は、その間お二人のことを祈り支えていったという歴史を持っています。そして運動の結果、1952年にオーストラリアは、日本人花嫁の受け入れを認めます。呉で出会い結婚し

た二人は、オーストラリアの白豪主義の政策転換のきっかけにもなったと言われています。

「この教会はこの先どうなってしまうのでしょうか」高齢化や信徒の減少という現実を見た時、私たちは消極的な思いを抱いてしまいます。時には、自分達は役割を終えてしまったのではないかと、考えてしまうこともあるかもしれません。しかし、神さまによって建てられた教会は、思いもよらぬ形でその時々、大きな役割を果たしてきたのではないのでしょうか。今私たちが置かれた状況の中で、教会を必要としている方たちの声を聞いていければと思います。

(今回ご紹介したお二人の物語は『チェリー・パークの熱い冬』という書籍にもなっています。ご興味のある方は、お求めください。)

(広島復活教会 牧師)